

今年度の取組状況について

～天竜川上流河川事務所～

- 多段階の浸水想定図、水害リスクマップの作成
- 天竜川水系流域委員会の開催状況
- 流域治水プロジェクトの更新

令和5年3月23日

多段階の浸水想定図、 水害リスクマップの作成

令和5年3月23日

水害リスクマップについて

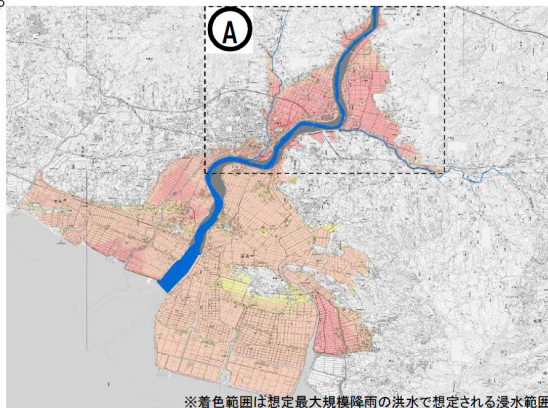
※国土交通省 HPより引用 (https://www.mlit.go.jp/river/kasen/ryuiki_pro/pdf/risk_map.pdf)

水害リスク情報の充実(水害リスクマップ(浸水頻度図)の整備)

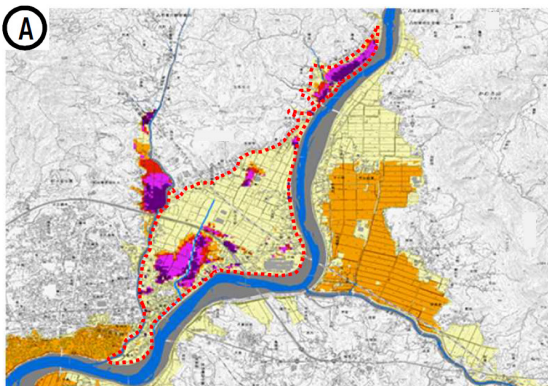
- 従来、想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水深を表示した水害ハザードマップを提供し、洪水時の円滑かつ迅速な避難確保等を促進。
- 今後は、これに加えて、浸水範囲と浸水頻度の関係をわかりやすく図示した「水害リスクマップ(浸水頻度図)」を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等を促進。

水害リスク情報の充実

○水害ハザードマップ



○水害リスクマップ※1



..... 内水氾濫浸水解析対象範囲

水害リスクマップの活用イメージ

現在の水害リスクと今後実施する河川整備の効果を反映した将来の水害リスクを提示し、以下に取り組む

- 住居・企業の立地誘導・立地選択や水害保険への反映等に活用することで、水害リスクを踏まえた土地利用・住まい方の工夫等を促進
- 企業BCPへの反映を促進することで、洪水時の事業資産の損害を最小限にとどめることにより、事業の継続・早期復旧を図る

現在(外水氾濫のみ)

整備後(外水氾濫のみ)



【令和4年度の国土交通省としての取組】

- ・全国109の一級水系において、外水氾濫を対象とした水害リスクマップの作成を完了させるとともに、先行して、特定都市河川や水災害リスクを踏まえた防災まちづくりに取り組む地区において、内水も考慮した水害リスクマップを作成

天竜川 水害リスクマップ(中期、中長期)

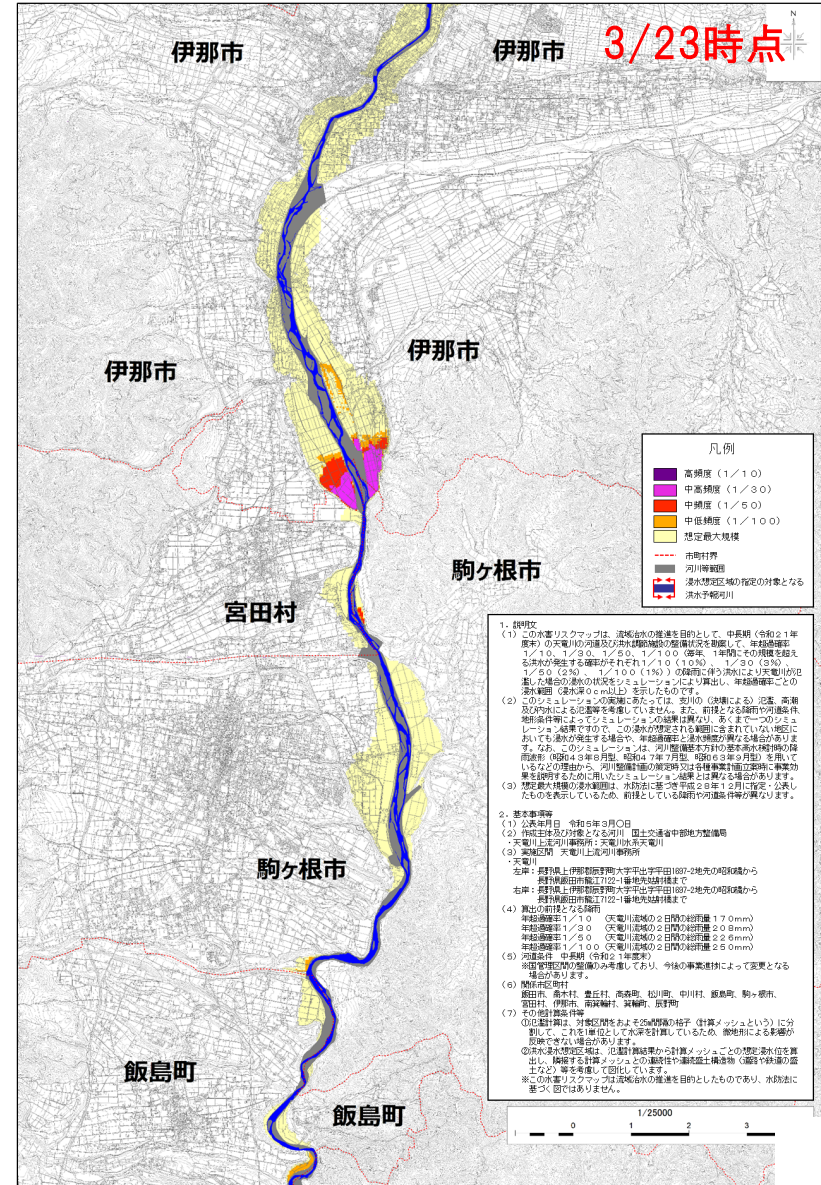
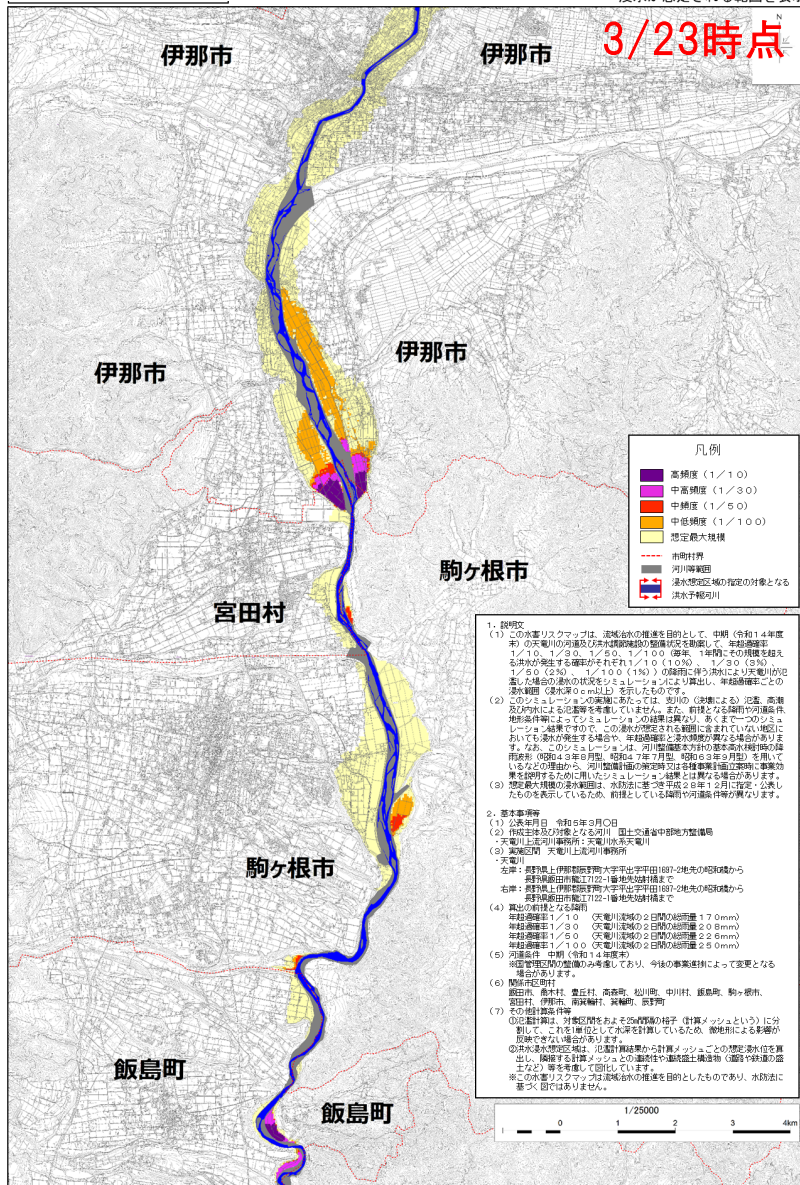
※多段階の浸水想定図については、別添「参考資料」参照

天竜川水系 国管理河川の氾濫を想定した水害リスクマップ
【中期河道】 4分の2

天竜川水系 国管理河川の氾濫を想定した水害リスクマップ
【中長期河道】 4分の2

浸水が想定される範囲を表示

浸水が想定される範囲を表示



この地図の作成にあたっては、国土庁委託の委託を受けて、関係機関の基礎地図情報を使用しました。[測量法に基づく(国土)地理院承認(使用) RAH6384]

この地図の作成にあたっては、国土庁委託の委託を受けて、関係機関の基礎地図情報を使用しました。[測量法に基づく(国土)地理院承認(使用) RAH6384]

天竜川水系流域委員会の 開催状況

令和5年3月23日

流域委員会の開催状況について

天竜川水系河川整備計画の進捗状況と点検結果を報告、天竜川総合水系環境整備事業の事業評価等を審議し了承されました。

審議

日時: 令和4年11月1日(火)10:00~12:00

会場: 飯田シルクホテル

出席: 委員11名(WEB併用)

国土交通省

浜松河川国道事務所

天竜川上流河川事務所

天竜川ダム統合管理事務所

三峰川総合開発工事事務所

議事内容: (1)規約改定について

(2)令和3年度第1回流域委員会での指摘事項と
その対応

(3)天竜川水系河川整備計画の進捗状況と点検

(4)天竜川総合水系環境整備事業



会場で開催した委員会の様子



佐藤事務所長



辻本委員長



WEBから参加頂いた委員4名

現地視察

・審議に併せ、各委員の河川事業への理解を深め、各事業の進捗状況の確認を目的に、現地視察を実施。



鷲流峡にて、松尾・下久堅治水事業の概要・効果等を説明



川路・龍江・竜丘地区の治水事業の経緯と地域づくり等について説明



かわらんべ(天竜川総合学習館)施設の20年の活動状況について説明



R2.7月出水により三峰川で堤防欠損した箇所、急流河川での被災特性を確認

流域委員会の開催状況について

今年度開催した流域委員会の中で、**基本方針の見直し検討を先行すること**を報告しました。

令和4年度 第1回 天竜川水系流域委員会

議事要旨

日 時：令和4年11月1日（火曜日）10：00～12：00

場 所：飯田シルクホテル、WEB形式併用

1. 開会

開会挨拶（中部地方整備局 天竜川上流河川事務局長）

2. 挨拶

委員長挨拶

3. 議事

(1) 天竜川水系流域委員会規約改正について（資料-1）

- 規約（改正案）について、了承された。

(2) 令和3年度第1回流域委員会での指摘事項とその対応（資料-2）

- ・ 指摘事項とその対応の積み重ねが重要である。P3に記載があるように、進捗状況の点検や事業評価の議事の繰り返しだけでなく、様々な観点から、流域委員会や整備計画の軸に合わせて検討し、議論できるようにしていただきたい。
- ・ 「令和3年度第1回委員会（R3.3.10開催）」については、（R4.3.10開催）に修正すること。

- 令和3年度第1回流域委員会での指摘事項とその対応について、了承された。

(3) 天竜川水系河川整備計画の進捗状況と点検（資料-3）

- ・ p15に天竜川は狭窄部が多く流量の制御が困難な河川であり、特に、小渋川や三峰川のような大きな支川の治水対策を進めていく必要があると感じている。また、美和ダム建設以降、相当な土砂堆積が進んでいるため、三峰川上流部での治水対策が必要ではないか。
⇒（事務局回答）今後の治水対策については、今後の委員会開催予定の資料で説明する。
- ・ 現在の農業用水の基本的な考え方は、稲作を中心とした利水の考え方である。現在、慣行水利権から許可水利権に変更され、水利権の許可権限は国交省が持ち、農業に関する指導は農水省が行っている。近年、稲作からより収益性の高い施設園芸への転換がすすんでおり、水利用の状況に変化が生じている。農業用の利水という問題を考えていただきたい。

1

2

3

て速やかに審査するよう

ハリエンジュは伐採して採と同時に伐根する考え

り、後で説明する自然再後、再萌芽の防止に向け

と常にセットになる。しである。改修効果の評価状を把握し続けることが

映し把握している。流下定しながら維持掘削を進とし、地盤の切下げや踏

河道の流下能力の状態や【辻本委員長】

持管理の評価も必要であ

は、整備計画策定時と名しておく必要がある（スした場合はイワナを記載認）。

のSSが高い傾向についてはいつ時点の値なのか。しており、バイパスによる大きな出水による攪乱に値を示している。

の降雨が発生した。近年、竜川流域で発生した時の

いる。台風15号でも天竜。現計画には、流木によ

いない。現在、気候変水協議会の中では、流ている。流木対策につきたい。

近年急激に増加しておとして挙げられている

め、今後、確認数の経

要注目種という位置づ、大河川では上層・下られる傾向にある。

係、地質との関係に開

規模、頻度が増加する審議いただけるように

事態が起こっているこう捉えていくかをしつ

定以降の新しい河川管ごきたい。

いる。カワムツは、伊（虫踏み漁）が実施さと、漁師の方から聞い

、マイクロプラスチックごきたい。

。また、水質について

承された。

ているが、今後の樹林減少を心配している。

⇒（事務局回答）自然再生事業では、再繁茂を抑制するために、冠水頻度が上がるように、また河床の礫が移動しやすいように砂州を切り下げ、維持できるように進めている。しかしながら、その効果は、出水の生起状況にも左右されることから、日々の巡視や河川水辺の国勢調査によって状況を把握していく。

- ・ 外来植物の種数は頭打ちとなったが、外来植物の比率が増加していることに関しては、自然再生事業による影響があるのかもしれない。河原の植生は、水域と陸域の推移帯であり、生物が非常に多様な場である。樹林帯を削ることで、連続性が絶たれ、全体の植物の種数が減少したことにつながった可能性もあるため、慎重に検討した方が良い。
⇒（事務局回答）外来植物の比率の経年変化に関しては、事業着手前の状況を示しているが、事業完了後も引き続き、河川水辺の国勢調査や日常の巡視で、状態を把握していく。

- 天竜川水系環境整備事業について、了承された。

4. その他

(1) 今後の委員会開催予定（資料-5）

《今後の委員会開催予定と合わせて、基本方針の見直し検討を先行することを報告》

5. 閉会

閉会あいさつ（中部地方整備局 浜松河川国道事務所長）

以上

【参考】河川整備基本方針と河川整備計画

※R2.6.15_天竜川水系流域委員会資料 抜粋

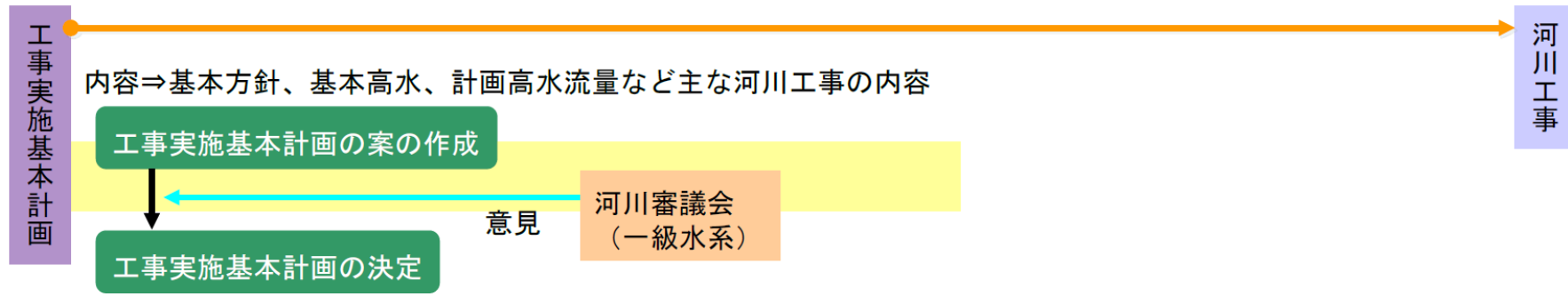
◆平成9年河川法改正

- 地域の意見を反映した河川整備の計画制度を導入
- 長期目標（河川整備基本方針）と、20～30年間の河川整備計画の2本立てに変更

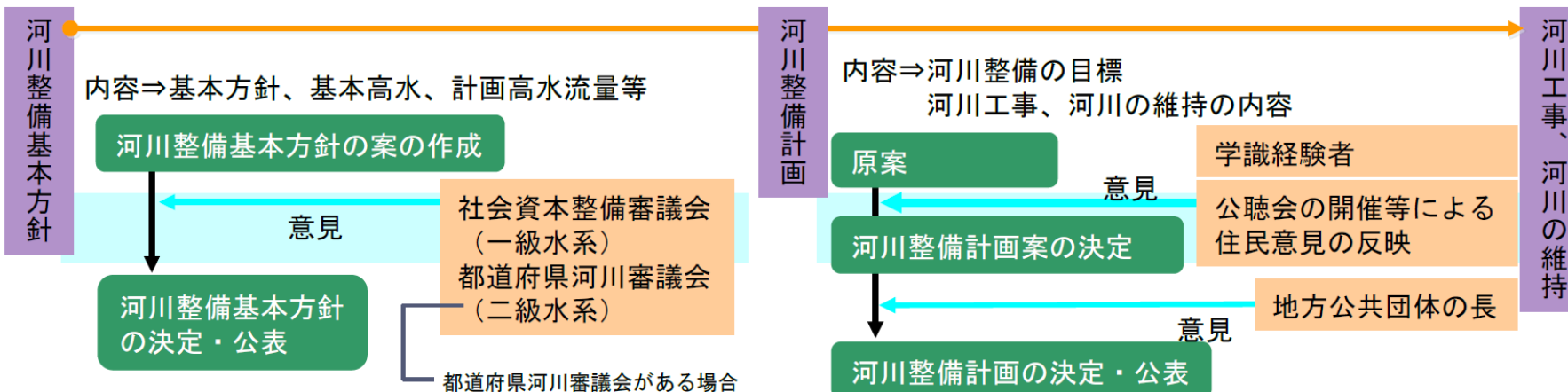
ポイント

- ・ 河川法の改正に基づき平成21年に天竜川水系河川整備計画を策定
- ・ 流域委員会は計画を策定する際に学識者の意見を聴くために設置された

旧制度



新制度



天竜川水系河川整備基本方針：平成20年7月25日策定

天竜川水系河川整備計画：平成21年7月30日策定

【参考】気候変動を踏まえた今後の河川整備の強化について

令和5年度 水管理・国土保全局 予算概算要求概要 令和4年8月【抜粋】

1. 流域治水

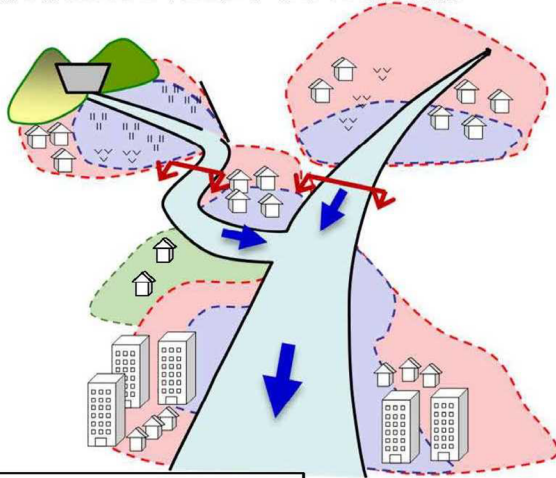
新規
事項

気候変動を踏まえた今後の河川整備の強化 水系一体の河川整備計画

- 気候変動の影響による降雨量の増大を踏まえ、流域全体の早期の治水安全度向上を図るとともに、計画規模を超える洪水(超過洪水)に対しても可能な限り被害を軽減する取組の推進が必要であることから、**気候変動に対応した河川整備基本方針の改訂を速やかに実施。**
- 下流から行う堤防整備や河道掘削の強化に加え、上流・支川における遊水地や霞堤の保全、利水ダムの事前放流や内水対策等を盛り込む、**本川・支川・上下流一体となった流域治水型の河川整備計画の改訂を推進。**

現在の河川整備の基本的な考え方

- 上下流バランスに配慮しながら、順次、下流から堤防整備や河道掘削を行うとともに、ダム、遊水地等の整備を実施



計画規模洪水による浸水：
 超過洪水による浸水：
 内水氾濫による浸水
 ダム：
 直轄区間：

気候変動による降雨量の増大に対応した河川整備の展開

流域治水型の河川整備（具体イメージ）

水災害の危険性が高い地域の河川は特定都市河川の指定を推進

水系全体での河川整備の加速化

- ・浸水拡大を抑制する自然堤防等の保全 (R5税制延長要望)

- ・高リスク箇所での浸水被害防止区域の指定 (移転や家屋高上げ等の取組との連携)

- ・ダムの再開発
- ・利水ダムの事前放流

- ・霞堤の保全

- ・輸中堤の整備
- ・雨水貯留機能の保全
- ・内水調整池の整備

- ・遊水地の整備

- ・水害リスクを踏まえたまちづくり、住まい方の工夫との連携

- ・遊水地の整備

- ・海岸堤防の整備との連携

上流・支川での河川整備・
洪水貯留等の推進

下流側の
河川整備の推進

水系一体の河川整備計画の改訂

気候変動を踏まえた河川整備基本方針の改訂を速やかに実施するとともに、流域治水型の河川整備の考え方を反映した河川整備計画の改訂を推進

河川整備計画の既存の取組に追加して、既存施設の機能強化も含めた遊水地整備、既設ダムの洪水調節機能強化、総合的な内水対策等を強力に推進。また、河道拡幅や遊水地整備等のための土地確保が困難な都市部等における地下空間の活用検討や、越水に対する河川堤防の強化を推進。

流域治水プロジェクトの更新

令和5年3月23日

作成状況について

- 「天竜川（上流）水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】」において、各項目の値を更新（年度内公表予定）



(※)天竜川上流・下流(静岡県)の合計値

時点更新



(※)天竜川上流・下流(静岡県)の合計値

➤ 「天竜川（上流）水系流域治水プロジェクト（更新済み）」を次ページ以降に掲載

天竜川（上流）水系流域治水プロジェクト【位置図】

～リニアを迎えて飛躍する伊那谷を守る流域治水対策～

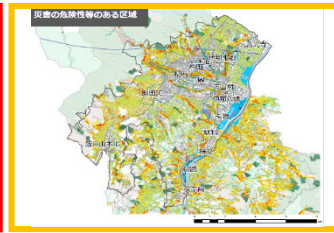
- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、天竜川（上流）水系においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 天竜川（上流）水系は、土砂生産が活発な急流河川であることから、河川対策の他に、流出抑制対策、貯留対策等、様々な取組を実施することで、国管理河川においては、戦後最大の昭和58年9月洪水及び平成18年7月洪水と同規模の洪水を安全に流し、早期に流域における浸水被害の軽減を図る。



天竜川上流域



砂防堰堤等の整備



立地適正化計画の作成(飯田市)



広域水防訓練の様子



- 凡例
- 堤防整備等
 - 河道掘削
 - 実績浸水範囲
 - (S58.9洪水、H18.7洪水)
 - 大臣管理区間
- ※図中の黒字部分は、代表事例を記載。

- ### ■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- ・河道掘削、河道拡幅、堤防整備、調節池、浚渫等
 - ・土砂バイパス施設の運用
 - ・利水ダム等10ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(関係者:国、長野県、中部電力(株)など)
 - ・砂防堰堤等の整備
 - ・公共下水道の整備
 - ・支流の森林整備
 - ・雨水貯留施設等の整備等

- ### ■ 被害対象を減少させるための対策
- ・住まい方の工夫に関する取組(「まちづくり」による水害に強い地域への誘導(立地適正化計画の作成・見直し)、水害に強い地域づくり、不動産関係団体等への水害リスク情報の提供と周知協力の推進等)

- ### ■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- ・水位計、監視カメラ等の整備によるリアルタイム情報の発信
 - ・水害の記憶の伝承
 - ・支川の氾濫に着目したハザードマップ等を作成し、リスク情報を周知(水害リスク空白域の解消)
 - ・要配慮者施設の避難に関する取組の推進(要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保)
 - ・マイ防災マップ、マイタイムラインづくり等の推進(ハザードマップの周知および住民の水害リスクに対する理解促進の取組)
 - ・水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組等

■ グリーンインフラの取り組み 詳細次ページ

- ・水位計、監視カメラ等の整備によるリアルタイム情報の発信(危機管理型水位計、CCTVカメラ等)
- ・水害の記憶の伝承(三次災害60年、シンボジュム等)
- ・マイ防災マップ、マイタイムラインづくり等の推進
- ・水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組(天竜川上流水防演習の実施 ※令和4年度)

- ・水位計、監視カメラ等の整備によるリアルタイム情報の発信
- ・水害の記憶の伝承
- ・水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組

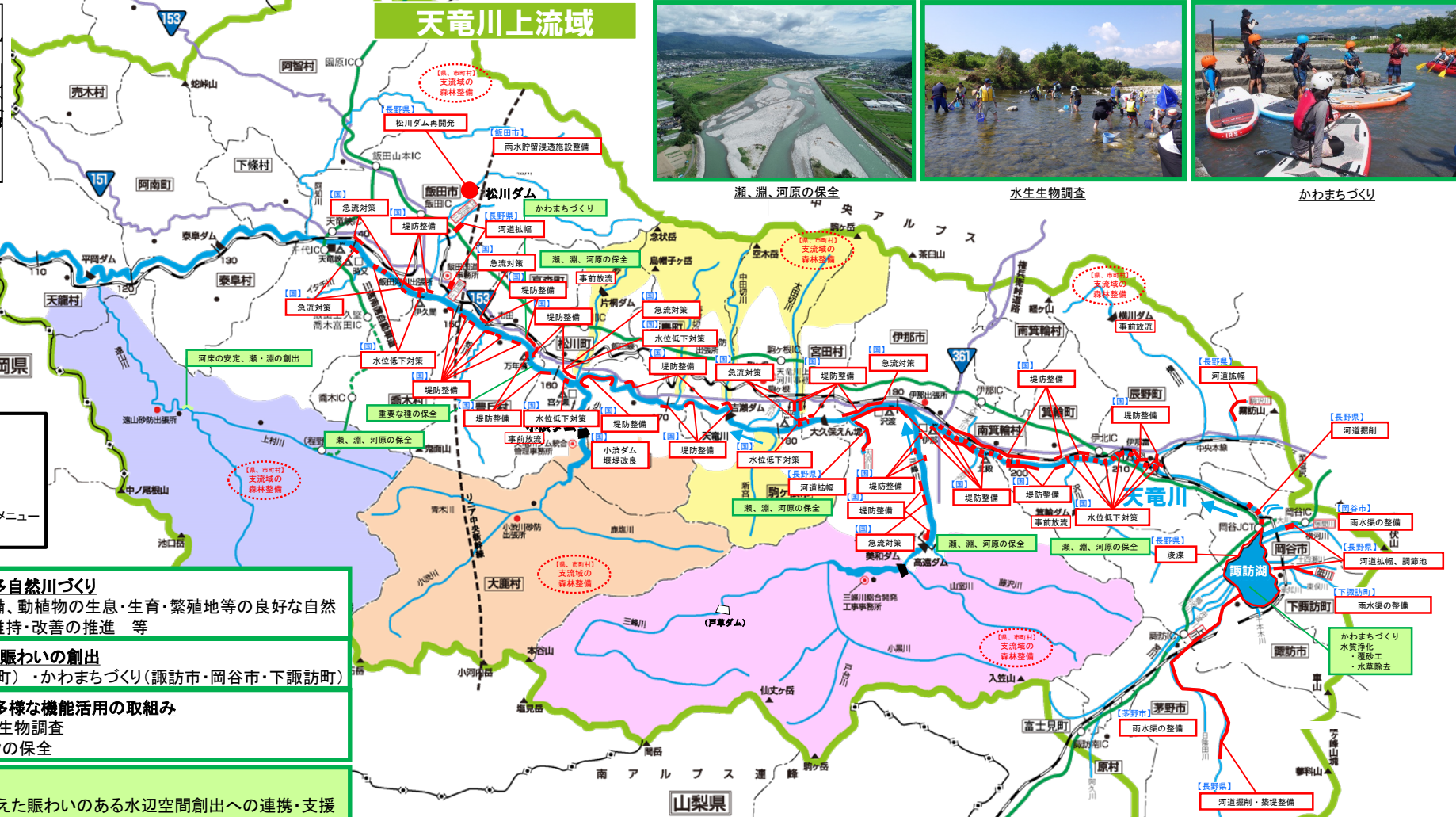
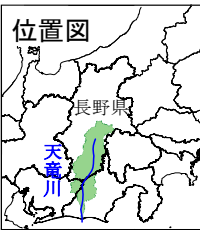
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
※〇〇川は、県管理河川の代表的な箇所(河川)を示したものである。

天竜川（上流）水系流域治水プロジェクト【グリーンインフラ】

～リニアを迎えて飛躍する伊那谷を守る流域治水対策～

●グリーンインフラの取り組み 『天竜川の上流風景である砂礫河原と河原固有の植物の保全』

- 天竜川は元々砂礫河原主体の環境基盤であり、日本でも天竜川上流域のみに分布している希少種であるツツザキヤマジノギクや、カワラニガナ等の河原固有の植物が生育するほか、イカルチドリ等の営巣に利用されている。
- ツツザキヤマジノギクのような地域固有の河原植物や、イカルチドリ、コチドリのような鳥類の生息・生育場の保全のため、今後概ね20年間に、瀬・淵礫河原環境の保全や地域と一体となった取り組みで保全するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



瀬、淵、河原の保全



水生生物調査



かわまちづくり

- 凡例
- 堤防整備等
 - 河道掘削
 - 大臣管理区間
 - 治水メニュー
 - グリーンインフラメニュー
- ※图中の個別箇所は、代表事例を記載。

- 治水対策における多自然川づくり
 - ・河道掘削、堤防整備、動植物の生息・生育・繁殖地等の良好な自然環境の保全、水質の維持・改善の推進 等
- 魅力ある水辺空間・賑わいの創出
 - ・かわまちづくり(高森町)・かわまちづくり(諏訪市・岡谷市・下諏訪町)
- 自然環境が有する多様な機能活用の取組み
 - ・民間協働による水生生物調査
 - ・ツツザキヤマジノギクの保全

- 【全域に係る取組】
- ・地域のニーズを踏まえた賑わいのある水辺空間創出への連携・支援
 - ・「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」に基づいた事業の促進

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
 ※〇川は、県管理河川の代表的な箇所（河川）を示したものである。

天竜川（上流）水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～リニアを迎えて飛躍する伊那谷を守る流域治水対策～

●天竜川(上流)では、集水域から河川区域までの流域全体を俯瞰し、国、県、市町村が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】> ボトルネック地点の治水安全度を向上させるため、松尾・下久堅地区(飯田市)、大久保地区(宮田村)にて河川整備(河道掘削、堤防整備等)を実施する他、流域での砂防堰堤等の整備、公共下水道の整備等を行う。

また、長野県では公共施設における雨水貯留施設の整備、市町村では立地適正化計画の見直し、要配慮者施設における避難確保計画の作成を進める。

【中期】> 伊那地区(伊那市)の治水安全度を向上させるための、水位低下対策(河道掘削、樹木伐開等)と、これまでに策定した計画の運用を進める。

【中長期】> 伊北地区(箕輪町、辰野町)の治水安全度を向上させるための、固定堰の対応事業、水位低下対策(河道掘削、樹木伐開等)と合わせて、流域を通しての取組(※4)を継続する。

【事業費】

■河川対策

〈全体事業費〉：約1,420億円 ※1

〈対策内容〉：河道掘削、河道拡幅、堤防整備、調節池、浚渫、ダム再開発等

■砂防対策

〈全体事業費〉：約1,444億円 ※2

〈対策内容〉：砂防堰堤等の整備、地すべり対策の推進等

■下水道対策

〈全体事業費〉：約20億円 ※3

〈対策内容〉：公共下水道の整備等

※1：直轄及び各水系の河川整備計画の残事業費を記載

※2：直轄砂防事業の残事業費を記載

※3：各市町における下水道事業計画の残事業費を記載

【ロードマップ】

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすため対策	河道掘削、河道拡幅、堤防整備、調節池、浚渫、ダム再開発等	国土交通省	【飯田市】松尾・下久堅地区治水対策事業	【宮田村】大久保地区治水対策事業	【箕輪町、辰野町】伊北地区の堰の改築
			【伊那市】伊那地区水位低下対策	急流河川対策(根継ぎ、護岸)	
	砂防堰堤等の整備 ※4	長野県	河道掘削、築堤整備、諏訪湖の浚渫		
	公共下水道の整備 ※4	長野県 各市町村			
被害対象を減少させるための対策	住まい方の工夫に関する取組 ※4	国土交通省 長野県 各市町村	【長野県】公共施設における雨水貯留浸透施設の整備	【伊那市】立地適正化計画の作成・見直し	【先行市町村】立地適正化計画の作成・見直し
			【長野県】公共施設における雨水貯留浸透施設の整備	【先行市町村】立地適正化計画の作成・見直し	【先行市町村】立地適正化計画の作成・見直し
被害の軽減、早期復旧、復興のための対策	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成と訓練の推進 ※4	長野県 各市町村	全ての要配慮者利用施設で計画を策定(目標)	不動産関係団体等への水害リスク情報の提供と周知協力の推進	運用
			天竜川上流域の広域水防訓練に向けた計画の策定及び実施	水防訓練の実施	
グリーンインフラの取組	瀬・淵・河原の保全	中部地方整備局	瀬・淵・河原の保全		
	高森かわまちづくり	高森町 中部地方整備局	【高森町、中部地方整備局】高森かわまちづくり		

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

※各工程段階の実施内容は今後の事業進捗によって変更となる場合があります。
※各対策の旗揚げは代表的な事例を示しています。

天竜川（上流）水系流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

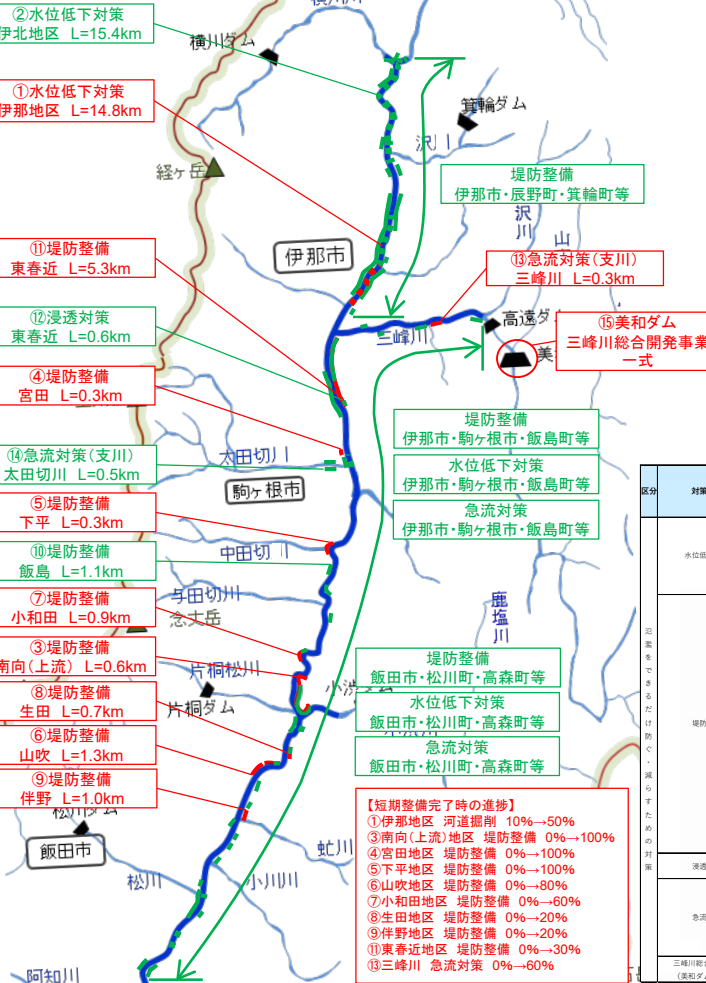
～リニアを迎えて飛躍する伊那谷を守る流域治水対策～

短期整備（5カ年加速化対策）効果：河川整備率 約81%→約83%

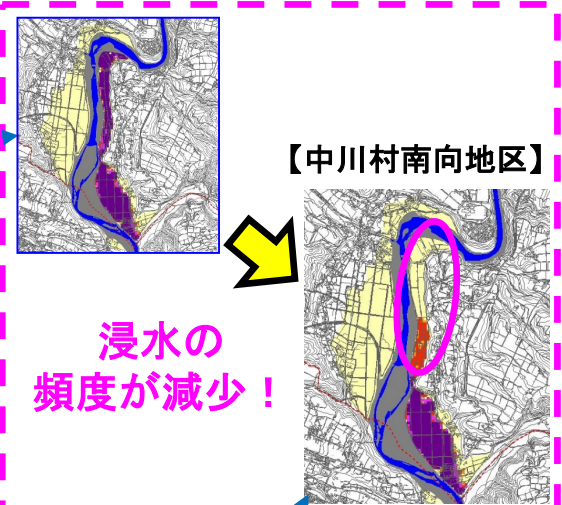
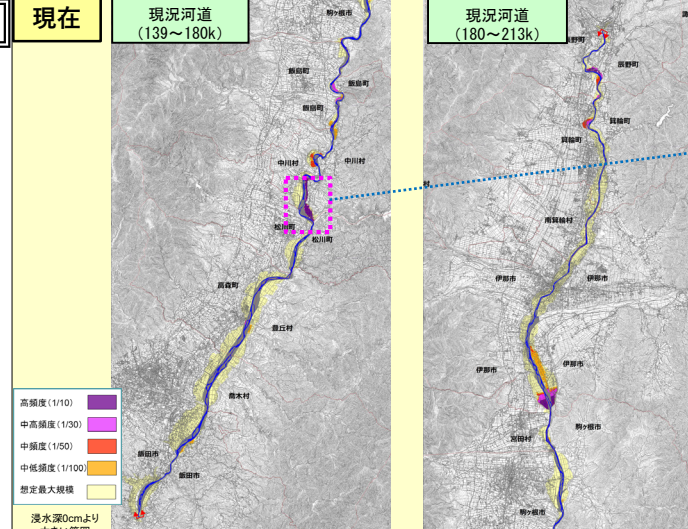
飯田市松尾・下久堅地区の鷲流峡治水対策事業の完了及び中川村南向地区における堤防整備、宮田村宮田地区(太田切川合流点)の河道整備により、同地区における戦後最大規模と同規模の洪水に対しても概ねHWL以下で流下させることが可能。

実施箇所・対策内容

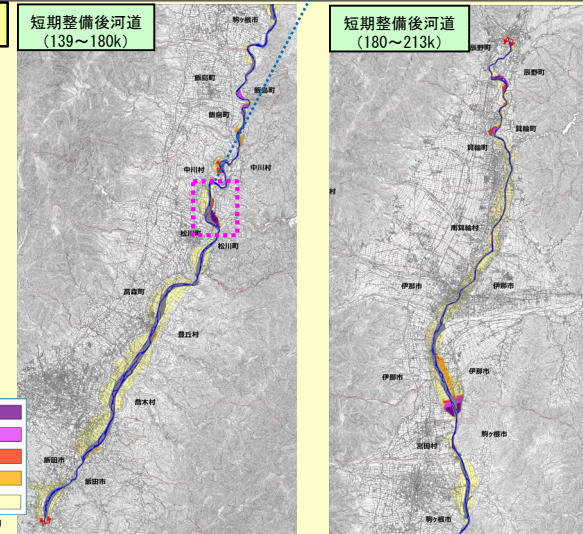
短期整備メニュー：赤字
整備計画メニュー：緑字



リスクマップ※



短期



区分	対策内容	箇所	工程		
			短期 (R3~R7年度) 1/10未満~1/10以上 (※1)	中期 (R8~R14年度) 1/10以上~1/10以上 (※1)	中長期 (R15~R20年度) 1/10以上~1/50以上 (※1)
水位低下対策		①伊那地区	81%	100%	100%
		②伊北地区	100%	100%	100%
堤防整備		③南向(上流)	100%	100%	100%
		④宮田	100%	100%	100%
		⑤下平	100%	100%	100%
		⑥山吹	80%	100%	100%
		⑦小和田	60%	100%	100%
		⑧生田	20%	100%	100%
		⑨伴野	20%	100%	100%
		⑩飯島	100%	100%	100%
		⑪東春近	30%	100%	100%
		⑬三峰川(三峰川)	60%	100%	100%
急流対策		⑭小和田地区	0%	60%	100%
		⑮美和ダム	100%	100%	100%
三峰川総合開発事業(美和ダム再開発)		⑯美和ダム	100%	100%	100%
			100%	100%	100%

※1 背後地の保全対象を考慮して、一部地域を除外した値となります。

※ 外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合があります。
 ※ この確率以下の洪水においても、浸食等により破壊する可能性があります。
 ※ 短期の図については、国直轄事業実施による効果です。
 ※ 本資料は、調整中のものであり、今後事業進捗等により変更が生じる可能性があります。

天竜川（上流）水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取り組み】

～リニアを迎えて飛躍する伊那谷を守る流域治水対策～

230323時点

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備



整備率 83%

(概ね5か年後)

農地・農業用施設の活用



6市町村

(令和4年度末時点)

流出抑制対策の実施



18施設

(令和3年度実施分)

山地の保水機能向上
および土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 43箇所(※)

(令和4年度実施分)

砂防関係施設
の整備数 0箇所(※)

(令和4年度完成分)

(施工中 26施設)

立地適正化計画における
防災指針の作成



1市町村

(令和4年12月末時点)

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定
区域 36河川(※)

(令和4年9月末時点)

※一部、令和4年3月末時点

内水浸水想定
区域 1団体

(令和4年9月末時点)

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保 洪水 367施設
計画 土砂 307施設

(令和4年9月末時点)

個別避難計画 12市町村
(令和4年1月1日時点)

(※)天竜川上流・下流の合計値

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

～天竜川（上流）水系流域治水プロジェクトの推進～



水位低下対策
(飯田市 松尾・下久堅地区)



堤防整備
(宮田村 大久保地区)



被災時



復旧工事完了

災害復旧(伊那市 美蓋地区)

- 河道断面確保のために、水位低下対策（掘削、樹木伐開）や堤防整備を実施。（天竜川上流河川事務所、県）
- 令和2年7月豪雨洪水で護岸が一部欠損した三峰川右岸4.6kp付近では、直ちに災害復旧工事を実施。（天竜川上流河川事務所）

～各戸貯留の推進による流出抑制対策（雨水貯留）～



各家庭で出来る雨水貯留のイメージ



各戸貯留推進の取組(松川町)



- 雨水貯留施設設置への補助を行うことで、各戸貯留を推進し、流出抑制対策を実施。（飯田市、松川町、阿南町、売木村）

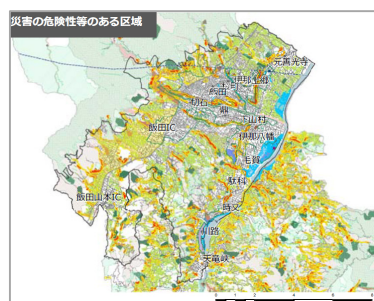
被害対象を減少させるための対策

～住まい方の工夫に関する取り組み～



いい山里街づくり推進計画
飯田市立地適正化計画

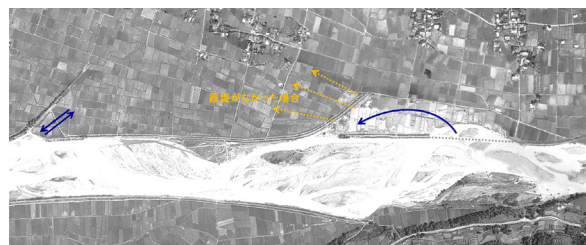
長野県飯田市
令和元年12月13日制定
令和2年4月13日改定



立地適正化計画の作成(飯田市)

- 「まちづくり」や住まい方の誘導による、水害に強い地域作りを進めます。（諏訪市、茅野市、駒ヶ根市、飯田市、南箕輪村）

～開口部が有する遊水機能と排水機能の保持～



昭和36年6月(三六災害)

三峰川の霞堤により、右岸堤防を越えた洪水を本川に還元した痕跡が残る

- 歴史的な治水の知恵として継承されている開口部が有する洪水時の遊水機能と排水機能を保持していきます。（天竜川上流河川事務所）

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

～水害の記憶の伝承、防災教育の取り組み～



シンポジウムの開催



学生への防災教育
(天竜川総合学習館かわらんべ)

- 防災教育や防災知識の普及促進により、地域防災力の向上を図っていく。（天竜川上流河川事務所、県、流域市町村）

～オンラインセミナーによる デジタル・マイ・タイムラインの普及促進～



マイ・タイムラインに基づく行動をスマホで状況確認し、避難のタイミング等をPUSH通知



避難のトリガー等のマイ・タイムラインをスマホで作成。避難のタイミングになった際は、プッシュ型で情報を受信。

- 地域の方々の防災力向上とデジタル・マイ・タイムラインの有効性や課題を検証することを目的にオンラインセミナーを開催しました。（伊那市、天竜川上流河川事務所）